

ロゼ

文化情報誌 ロゼ

ROSÉ THEATRE
ART INFORMATION OF FUJI CITY
CULTURE MAGAZINE ROSÉ

VOL. 43 2003



ロゼ

富士市文化情報誌 ロゼ 2003年4月発行(第43号)
発行 (財)富士市文化振興財団 〒416-0953 富士市藤原町1750番地 TEL(0545)60-2510代
企画・編集・製作 (財)富士市文化振興財団事業課企画広報係 アドスペース エービック株式会社

おかげさまで 十周年

平成五年十一月にオープンしたロゼシアターも今年で開館十周年を迎えます。
振り返れば、クラシック、ジャズ、オペラ、バレエ、ミュージカル、演劇、落語、歌舞伎、能、狂言...と、九年間で約三五〇本の公演を行いました。そして、本年度も十周年を迎えるに相応しい、魅力ある公演をご用意致しました。是非皆様でご鑑賞下さい。

ロゼシアター開館十周年を迎える、平成十五年度事業のトップバッターは、「SOUND OF JOYINTONSAIRT(四月二十日)」です。ゴスペルを愛する八名で構成するア・カベラ(無伴奏)コーラスをお楽しみください。また、市民約八十名が参加したワークショップで結成された「ROSE Gospel Choir」も出演し、コンサートを盛り上げます。

続いては、「宝塚歌劇星組公演(五月十三日)」です。湖月わたる、檀れい他の出演で豪華絢爛なステージを披露いたします。

そして、今年で十二回目を迎える新人音楽家による演奏会「2003 MAYコンサート(五月二十五日)」も今春、音楽大学・短大等を卒業した新人音楽家のフレッシュな演奏をお届けいたします。

同じく五月には、「ケヴィン・ケナー・ピアノリサイタル(五月三十日)」第十二回シヨパン国際ピアノコンクール最高位のケヴィン・ケナーは、優雅さと力強さを兼ね備えたトップクラスのピアニストとして認められています。また、マスタークラスを対象とした「ピアノ公開レッスン(五月三十日)」も開催します。



梅雨時の不快感は「アジアの風Ⅱ」チェン・ミンニ(胡) LIVE 2003(七月十日)でリフレッシュしましょう。アジアの風シリーズ第二回目となるこのライブ。二胡が織りなす澄み切った音色で心に癒しを与え、アジアの風を感じてみませんか？

さらに、「松竹大歌舞伎 坂東三津五郎襲名披露公演(七月十五日)」も見逃せません。



梅雨時の不快感は「アジアの風Ⅱ」チェン・ミンニ(胡) LIVE 2003(七月十日)でリフレッシュしましょう。アジアの風シリーズ第二回目となるこのライブ。二胡が織りなす澄み切った音色で心に癒しを与え、アジアの風を感じてみませんか？



梅雨時の不快感は「アジアの風Ⅱ」チェン・ミンニ(胡) LIVE 2003(七月十日)でリフレッシュしましょう。アジアの風シリーズ第二回目となるこのライブ。二胡が織りなす澄み切った音色で心に癒しを与え、アジアの風を感じてみませんか？



演目は「操り三番叟」「口上」傾城反魂香(土佐将監閑居の場)。

「ロードウェイ・ミュージカル ピーターパン(八月十日)」は、小さいお子様から、大人までファミリーで楽しめるミュージカルです。出演は、ピーターパンにオーディションで選ばれた中村美貴、ダリーリング夫人に比企理恵、タイガーリリーに西牟田恵、そしてフック船長に鶴見辰吾を迎え、その他多彩な顔ぶれでお届けいたします。ピーターパンが客席上空



を飛び廻り、みなさんに夢と希望を与えてくれるはず。是非ご家族揃って出掛け下さい。

秋の訪れとともに、「創作能」^{カキヤ}「狂言のタベ(九月十七日)」はいかががでしょうか？幽玄な世界に身を任せ、能を堪能してみるのも良いかもしれません。富士市在住の丸茂湛祥氏の作である創作能「赫夜(かぐや)」は、富士の竹取物語を忠実に再現した複式夢幻能で、出演の津村禮次郎構成でお届けいたします。また、狂言は野村万作・萬斎親子が「昨年に続き二度目の登場となります。

市民ミュージカルシリーズの最新作はプロとの共演です。過去のミュージカルの演出家である三浦克也率いる劇団シアター・ジャパンと、オーディションで選ばれた市民キャストで送る「ミュージカル HAND IN HAND」心と心の回想録(九月二十七日)。



アノで競演する「小原孝&佐山雅弘 Piano Duo(十月二十四日)」。



指揮に準、メルクル・ピアノにルドルフ・ブッフビントナーを迎え、R・シユトラウス作品を中心にお届けいたします。

オーケストラ、歌手、ダンサーを交えて繰り広げる、魅力のミュージカルハイライト。あの名シーン、あの名曲をお贈りするのには、「ロードウェイ・ミュージカルカンパニー(十一月六日)」で

年末を迎え、「めざましクラシックス(十二月十三日)」がロゼシアターにやってきました。



「デイズ・オン・クラシックス(二月十五日)」特別企画「ヤングふじ寄席 I・II・III(九月二十二日・十二月七日・二月八日)」。



「アジアの風Ⅲ」のどうた「タルバガン」十月四日(は)は、アジアの風シリーズ第三回目モンゴル発です。様々な民族音楽の中でもひととき、わ異なる彩を放っているのどうたは、一人の人間が独特の「だみ声」を発しながら同時に高音の音を出す不思議な歌唱方法です。

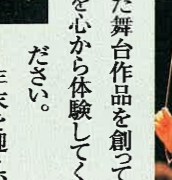


秋の夜長は、「鼓童〜ONE EARTH TOURS(十月十四日)」で。皆様ご存じの太鼓集団「鼓童」が日本人魂の神髄を披露いたします。

クラシックからポップスまで弾きこなし小原孝とジャズピアニストの佐山雅弘が、二百のピ



「クイケン・タルバット(十一月五日)」は、オールモーツァルト・プログラム。古楽器で奏でるクワリネット五重奏はなかなか聴けません。この機会に是非ご鑑賞下さい。



高嶋ちさ子、軽部真、そしてスズキルゲストが贈る、極上のアレンジと、極上のアンサンブル。少し早いクリスマスに大切な人とどうぞ...

年が変わり、二〇〇四年。最初のプログラムは、「アサンブル・オフ・トウキョウ(二月十八日)」。



「仲道都代星のどうぶつたち(三月十四日)」で親子揃ってお楽しみください。



そして、昨年に引き続き、若い作家を対象とした公募展、「新進アーティスト作品展」At Generation 2004(三月十二日・二十一日)を開催いたします。

皆様のご来場をお待ちしております。

チエシ・ミン



来る七月十二日(金)、ロゼシアター・中ホールにて「アジアの風」中国発「二胡ライブ」を行う、チエン・ミンさんを東京・赤坂にある東芝EM-1を訪ね、お話しを伺いました。

Q: 来日以前に、上海越劇院オーケストラのメイン二胡奏者としてすでに活躍されていたのに、日本の大学に入学されたのは、日本のどんなところに興味があつたからでしょうか。

実際に日本にきてみてどうでしたか。

A: 日本に来たきっかけというのは些細なことなんです。一九八〇〜九〇年頃に、日本の情報がすく中国に入ってきたり、私の仲間が日本に行ったりしていましたので、日本との距離がとても身近に感じられたんです。また、私の小さい頃は、日本との戦争の事など聞かされていて、日本に対して怖いイメージがあつたんですが、実際に日本の人と会ってみると全然違っていたので安心しました。また戦後、世界の経済大国に発展した日本を実際に見てみたいな〜と。もちろん、経済だけではなく、日本の文化も見てみたいと思つたのがきっかけです。

Q: 日本に来て十二年、今では日本語を完璧にこなしているらしいチエン・ミンさんですが日本語はどの様にしてマスターしたのですか？

A: 日本に行くことと決心した時点から、中国で日本語を勉強し始めました。でもその時はあいさつ程度の日本語でしたので、実際は日本に来てから勉強しました。日本に来てみて一番困つたのが「言葉の壁」でした。人とのコミュニケーションが出来ない、人の心がわからない。同じ国の人ですとこの人のこの目線やこの表情だと喜んでるとか、怒つ

ているとかがわかるんですけど、初めて日本に来た時はビックリしました。電車に乗っている人は大勢いるのに、どうしてこんなに無表情なのか、どうしてこんなにしんとしているのかと思つました。言葉が通じないので辛かったのですが、その分一生懸命に日本語を勉強しました。日本語学校で学んだ言葉をアルバイト先で即、実際に使ってみて覚えました。

Q: へえ、どんなアルバイトしてましたか？

A: 日本語学校に通いながら、「コージコーナー」という喫茶店のウェイトルスのアルバイトをしていました。実はウェイトルスは私にとって憧れだったんです。その当時中国にはおしゃれな喫茶店というものが無かったので、ウェイトルスのかわいい制服を着られるのが嬉しかったです。その後、大学に入ってから一胡を教えたり、中国語を教えるりしていました。

Q: 二胡は中国の伝統的な楽器ということですが、本来どんな場面で演奏されていたのでしょうか？

A: 「二胡」という楽器は大衆的な楽器で、京劇など中国の民族音楽の中で、どんなジャンルにでも使われる楽器です。

Q: 二胡の魅力とは何でしょうか？

A: 初めて聞いてもどこか懐かしく感じたり、すんなりと人の心に入っていく親しみやすい所が魅力だと思います。また、音色が演奏する人によって変わるので同じ曲でも弾く人によって全く違う曲になってしまうこともあるんです。



私の記憶の中では小さいころ映画を見に行くと、悲しい場面では必ずこの楽器が使われる事が多かったので、二胡というのは、もの悲しい楽器なのかな〜と思つていました。でもこの楽器は人の心や人の感情をうまく表現出来る楽器なんだ、二胡とのつきあいが長くなればなる程、わかってきました。ただ、その感情の機微を表現しつくすのは、本当に難しいことです。二胡の練習や音楽の世界以外からの「学び」も大切だと思つています。

あるものはありますか？

A: 自分のアルバムの中の楽曲ではいろいろな国の楽器を使つてみたいという気持ちは強いです。例えばインドの「タブラ」という楽器や沖縄の「三味線」など、モンゴルの「馬頭琴」という二胡に似ている素敵な楽器があるんですが、すく大陸的で広大な大地を感じさせてくれる楽器なんです。

Q: 忙しいときや病気の時はこれを食べて乗り切る、そんな食べ物ありますか？

A: そうですね、私は病気がないんですよ。なぜかというんです、病気がない事に決めているから(笑)。私は「和食」が大好きなんです。中国から両親が来た時とは、中華料理にしますが普段は和食で、うどんやそばが好物。朝は味噌汁と御飯と納豆の定番メニューで決まりです。

静岡のアジの干物も好きです。また、日本茶にちよと甘い物の組み合わせも最高です。風邪をひいた時も薬は、ほとんど飲まないで直すようにしています。毎日風呂の最後に水をシャワーで浴びるのを日課にしているのも風邪をひかないコツかも知れません。

Q: 中国へお帰りになる時間はありますか？

A: 今はなかなか帰れませんね。ただテレビなどで中国の事をリアルタイムに知る事ができますが、やはり空気感までは感じとれませんからツアー終了後は、是非帰つてゆつくりしたいと思つています。

Q: 今後の活動をお聞かせください？

A: 五月十四日に3rdアルバム「I Love 我聞」(東芝EM)をリリースします。六月から三十回くらいの公演を予定しています。その中に富士市のロゼシアターでのコンサート(七月十日、金)も入っていますので、今から楽しみにしています。

Q: アンケートの中にチエン・ミンさんのコンサート希望する声がとても多くて、チケットはすでに完売しています。富士の公演を楽しみにしている方々へメッセージをお願いします。

A: 富士山と毎日対面する事が出来て、富士市の方たちがうらやましいです。実は私も富士山が大好きで、富士山からインスピレーションを受けて曲作りをしたりしますので、今度富士市に行くのを楽しみにしています。



Q: 今後もこの「アジアの風」シリーズを続けていく予定ですが、アジアの音楽、楽器、様々なステージのなかで二胡以外で興味があるものはありますか？

新日本フィルハーモニー交響楽団
指揮：小澤征爾
ピアノ：梯 剛之
平成15年2月18日(火)



世界のオザワがやってきた

ふ らりとステージに現れた小澤征爾さんの表情はとても柔らかく、固唾を飲んで待ち受ける客席の緊張感とは対照的に、まるで慣れ親しんだ場所にもやってきたかのようでした。

世 界的指揮者という「気むずかしい」「頑固」なんていう人物像を想像しがちですが、小澤さんの場合、音楽が好きで好きでたまらないオジサン(失礼)が仕事場にやってきて、「さあ、今日もはじめようか」という感じ。ピアノリストの梯さん、新日本フィルのメンバーも、小澤さんと演奏することがとても楽しいでしょう。小澤さんの登場に、ステージ全体が家族的で、とても親密な雰囲気包まれたのです。

ゲ ネプロでは、ベートーヴェンのピアノ協奏曲と交響曲三番「英雄」のほとんど全部を演奏。練習といっても世界一流の指揮者、ピアニスト、オーケストラが本番直前の最終チェックをしているので、小澤さんの顔もさっきまでの穏やかな表情から真剣な音楽家の顔に。要所で演奏を止めながら細かい指示を出す場面などは、まさに「音楽づくりの現場」そのもの。高校生達もいつのまにかこの滅

多に見られないゲネプロ、迫力の演奏に魅了されていました。また「英雄」の練習に入る前、小澤さんは客席に降りて、高校生たちに話しかける場面も。目の前に、あの世界のオザワが！？ちよっとうれしい瞬間でした。

約 一時間でゲネプロは終了。そのゲネプロの興奮冷めやらぬ直後、各高校代表生徒十二人が小澤さんの楽屋を表敬訪問。世界のマエストロの前に、皆ずいぶん緊張したようですが、小澤さんがひとりひとりに「何年生だい？」「楽器は何をやっているの？」と言葉をかけ優しく迎えてくれました。

若 人達とコミュニケーションするのが大好きだという小澤さん。昨年ウィーン国立歌劇場の音楽監督に就任してからは、以前にもまして多忙な毎日を送っています。そんな中にあつても、若い世代へのアプローチとなる取り組みにはとても熱心です。今回の公開ゲネプロもそうした小澤さんと新日本フィルのご協力により実現したのですが、世界で活躍するマエストロの元気の源は、ひとつしたら若い人達との触れあいにあるのかもしれないですね。

◎代表生徒によるゲネプロ終了直後の感想

富士見高等学校 佐々木 恵(トロンボーン)
とにかく感動しました。弦を間近で聴いたのが初めてだったので…。吹奏楽では弦のパートをクラリネットがやっているのですが、それとはまた違った、繊細な弦の音が素直に耳に入ってきて心地よかったです。何もかも初めての体験だったのですごく感動しました。

吉原工業高等学校 鈴木 文規(トランペット)
プロの演奏というのを今日初めて聴いて、そして小澤征爾さんの指揮も生で見ることが出来て、大変感動しました。プロの演奏は出だしが凄く綺麗で、とても良かったです。ピアノの梯さんは目が見えないのにどうしてあれだけみんなと合うのか不思議に思いました。音楽には障害とかは関係ないと思いました。

富士高等学校 石川 紗穂(サクソ)
いつもテレビで見ている小澤征爾さんと梯さんを生で見ることができて貴重な体験をさせていただきました。吹奏楽ではピアノはあまり使わないので、梯さんの演奏は特に緊張して聴くことができました。すごく勉強になりました。

富士東高等学校 諏訪部 真由美(パーカッション)
小澤征爾さんの指揮は、演奏者と一体となっていて、指揮をしているという感じが凄く感動しました。梯さんのピアノは、小澤征爾さんとおっしゃっていた通り、本当に違う世界の人と言った感じで、目が見えないというのはどういふことなんだろうと考えさせられました。でも、そういうことは関係なく音楽というものは出来るんだなと思って本当に感動しました。

富士宮西高等学校 山下 千佳(チェロ)
初めて小澤征爾さんの生の指揮を見ることができて感動しました。テレビでは見たことがあるんですけど…。それは、ほんの一部しか出ないで、今日全部見て、私の知っている指揮と違い、動きもあって体全体で曲を表現しようとしているのが伝わってきてすごく感動しました。

富士宮北高等学校 木川 実波(パーカッション)
小澤征爾先生指揮の新日本フィルの演奏を聴くことができるなんて思っていなかったものでとても嬉しかったです。演奏もびったり息が合っていてどれだけ練習したのかと感動しました。小澤先生にお会いできたことも嬉しかったです。いろいろと質問などして出来なくて残念でした。

吉原高等学校 藤 めぐみ(サクソ)
私は前の席で見させて頂いたのですが、小澤さんが息をしているのが聞こえて、小澤さんは指揮者だけでなく、みんなと一緒に呼吸して、演奏しているんだなと思いました。音が止まった後、梯さんのピアノから始まるところで、小澤さんの息をきっかけに梯さんが入って、そこが凄く感動しました。

富士東高等学校 福葉 沙里(1stヴァイオリン)
演奏を聴くのはもちろん、ゲネプロを見学するのは生まれての体験だったので、この話を聞いてから、ずっと楽しみにしていました。個々に練習していた人が指揮者の手が上がった瞬間、スーッと静かになる切り替えの早さと集中力に驚きました。又、弦楽器に対して管楽器の人数がすごく少ないのに、人数の差を感じさせない音量とその迫力に圧倒されました。

吉原商業高等学校 遠藤 善(ユーフォニウム)
小澤先生指揮の演奏は今日初めて聴きました。顧問の先生にも、あと自分が死ぬまでに一回聴けるか聴けないかと言われている位凄いなと言われていたのでも感動しました。小澤先生の指揮は、音に直接触っているような指揮者で良かったです。

星陵高等学校 出羽 基子(トランペット)
プロの吹奏楽の音を間近で聴いたのは初めてで、あまりの綺麗さに鳥肌が立ちました。梯さんのピアノは、小澤さんのおっしゃる通り、「別の世界のモノ」という感じで、指揮者の息使いやその場の自然な空気をそのまま表現しているような音でした。テレビで見ると小澤さんは少し神経質なのでは？と思うくらいでしたが、実際に声を聴いたり楽団の人達と話をしていると、すごく気さくで明るい方なのだなと思いました。

富士館高等学校 高本 清理(チェロ)
ずっと憧れていた小澤征爾さんの指揮を今日生で見ることができてすごく感動しました。一番始めに音の出るところとかがみんな揃ってやっぱプロは凄いなと思いました。今日はとても貴重な体験をさせていただきました。



ロゼシアター
開館10周年記念事業
新日本フィルハーモニー交響楽団演奏会

ベートーヴェン作曲 指揮：井上道義
荘厳ミサ曲
2003年7月6日(日)
ロゼシアター大ホール
開場14:30 開演15:00
入場料<全席指定>
一般/5,000円 学生/2,000円

独唱：ソプラノ 林 正子 アルト 黒木香保里
テノール 市原多朗 バリトン 三原 剛
合唱団 富士ロゼシアター合唱団 合唱指揮 福島章恭

2002年9月～2003年3月

平成14年度後期自主事業(9月～平成15年3月まで)を、それぞれの催物に寄せられたアンケートをもとにフラッシュバックしてみました。
※サインは公演当日出演者からいただいたものです。

3/8

中ホール

●ワークショップも含め、分かり易く、入り込みやすかったです。特に「羽衣」はゆかりの地ということで愉しむ事ができました。(清水市 50歳代 女性) ●初めて能を見ました。難しいかなという予想に反して楽しく見ることが出来ました。衣裳等も素で目を見張ってしまいました。また見たいと思いました。(富士市 20歳代 女性) ●言葉と音のバランスがとても心に残る音声として聞こえて参りました。楽しませて頂きました。(富士市 50歳代 女性)

能楽の現在2003



3/14

中ホール

●とても良かったです。歌を聞いていると涙が出てきます。夏川りみさんの人柄がいいです。素晴らしいコンサートでした。(三島市 40歳代 女性) ●周りで聞くことができとてもうれしいです。日頃の忙しさがとても癒され、又パワーをもらえました。また来たいです。(富士市 30歳代 女性) ●10歳の娘が「涙そうそう」が大好きで、コンサートに行きたいということで、初めて親子でコンサートに来ました。いい記念になりました。とても良かったです。(富士市 40歳代 女性)

アジアの風 I
夏川りみソロライブ



3/28

小ホール

●学生時代、龍雲さんのファンでした。以前と変わらぬ伸びのある高音に当時のことをいろいろ思い出しました。是非また二人で来て下さい。(庵原部 40歳代 女性) ●心にしみ入る二人の歌声に胸がしめつけられる思いと共に感動がよみがえりました。二人の平和の言葉がこれからも長続きしますよう祈っています。(富士市 40歳代 女性) ●とても良かったです。懐かしかったし、お二人の声が澄んでいてすばらかった。また、聴きたいです。(富士市 40歳代 女性)

フォークグラフィティ第3回
因幡 晃 / 永井龍雲

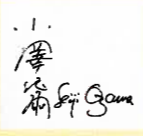
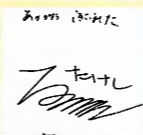
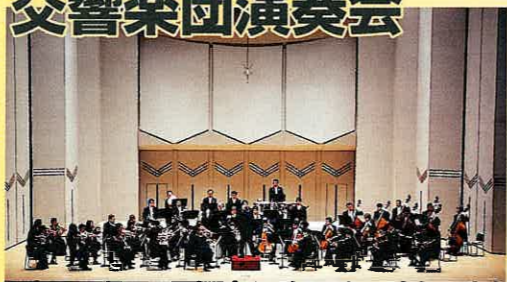


2/18

大ホール

●梯 剛之さんの素晴らしい演奏に感動しました。小澤征爾さんの温かさを感じ、涙が溢れました。演奏会で涙したのは初めての体験でした。心より御礼申し上げます。(清水市 50歳代 男性) ●心に響く音の世界に身をおく事が出来、至福の一時でした。暖かなオーケストラの響きの中で、澄み切ったピアノの音色に感動いたしました。(富士市 60歳代 女性) ●素晴らしい演奏でした。ピアニストの梯さんのピアノの音色がきれいなのにびっくり致しました。指揮者の小澤征爾さんの人柄、やさしそうな方で、梯さんをいたわるところに感動しました。(富士市 60歳代 女性)

新日本フィルハーモニー
交響楽団演奏会

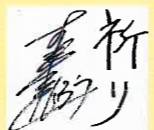


2/28

小ホール

●懐かしい曲をたくさん聴くことができ、つかの間昔に帰れました。ありがとうございました。(富士宮市 50歳代 女性) ●フォークは私達の青春時代です。歌の素晴らしいは、時代をそのまま夢見ることができることです。1年に1度はこの様な計画をしてください。楽しみにしています。(富士市 60歳代 女性) ●懐かしさが心の中を通り、若い頃の思い出が走馬燈のように浮かび感動しました。来て良かった。素晴らしいコンサートありがとう!!(富士市 40歳代 女性)

フォークグラフィティ第2回
杉田二郎 / 山木康世

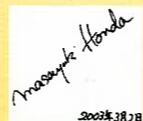


3/2

小ホール

●多彩なプログラムで素晴らしい演奏、とても聞き応えがあり良かったです。ありがとうございました。(富士宮市 40歳代 女性) ●マンダリンの音色のやさしさ、そして各楽器となんとよく響き合うことか! 楽しませていただきました。音楽っていいですね。(富士市 50歳代 女性) ●とても楽しめました。特にフルードが素敵な響きと何とも言えない味わいをにじみ出してきていたと思います。みなさん、たいへんありがとうございました。(沼津市 50歳代 女性)

内藤閑喜プロデュース
マンダリンコンサート



12/15

大ホール

●パンチが効いていてすごく良かった。良いクリスマスになった。(富士市 50歳代 女性) ●本場のクリスマスソングを聴かせていただき、ハーモニーが大変素晴らしく感動しました。(富士宮市 60歳代 男性) ●20代の頃、聴いていました。素晴らしいハーモニーは今も変わらないですね! いつまでも、歌っていて欲しいと思います。(富士市 40歳代 女性)

マンハッタン・トランスファー
JAPAN TOUR 2002

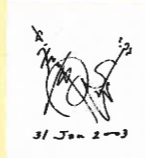


1/31

小ホール

●昔と変わらない小室さん、山梨さんと青山さんのジョイント、楽しかったです。小室さん、山梨さん、また富士にコンサートに来て下さい。(富士市 40歳代 女性) ●お二人の味わいのある歌声、また音色に、心が癒されました。素晴らしい演奏をありがとうございました。(富士宮市 60歳代 女性) ●お二人のそれぞれの個性が生きていて素敵でした。(富士市 50歳代 女性)

フォークグラフィティ第1回
小室 等 / 山梨隼平



2/2

中ホール

●桑太郎さんの話はさすがでした。とても楽しかったです。涙を流して聞き入りました。(富士宮市 50歳代 女性) ●とても楽しく拝見させていただきました。初めて鑑賞させていただきましたが、次回も是非見たいです。楽しみにしています。(富士市 20歳代 女性)

ふじ寄席
(三遊亭楽太郎/笑組他)



Flash Back フラッシュバック

9/27

大ホール

●時間があっという間にすぎた。とても良かったです。(田方部 30歳代 女性) ●従来のフラメンコより、斬新な踊りでビックリした。個性的で魅力的で素晴らしいかったです。(富士市 60歳代 女性) ●初めてみましたが、手のやわらかい動きと足の細かいステップの迫りに驚きました。(富士市 16歳～19歳代 女性)

マリア・パヘス
舞踊団



10/19

中ホール

●初めて文楽を見に来たのですが、とても楽しかったです。(富士市 20歳代 女性) ●解説があって良かったと思います。心情や表情を感じさせる動き見事でした。もう一度見たいです。(富士市 30歳代 女性)

文楽

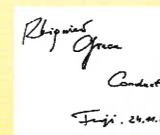


11/24

大ホール

●華やかな舞台で、声量溢れる俳優たちの演技に感激した。こうした催しを今後もお願いしたい。(富士市 70歳代 男性) ●初めてオペラを見るチャンスを得ました。歌姫たちの素晴らしい声にすっかりうたれてしまいました。ありがとう。(静岡市 50歳代 男性) ●オペラがこんなに素敵だったなんて! 初めて見たけど最高でした!(三島市 20歳代 女性)

ポーランド国立
ワルシャワ室内歌劇場オペラ
「フィガロの結婚」



ロゼシアター開館10周年記念ミュージカル

HAND in HAND ~心と心の回想録~

掲示板

市民CAST募集

本作は、演出家三浦克也率いる劇団シアタージャパンとの共演!
プロに交じって、熱い汗を流し、スポットライトを浴びてみませんか?
ダンス・歌が大好きでミュージカルに興味がある方のご応募をお待ちしています。

公演名 ミュージカル「HAND in HAND ~心と心の回想録」
公演日 平成15年9月27日(土) 開演18:30 9月28日(日) 開演14:00
会場 富士市文化会館ロゼシアター中ホール

- 募集要項
- 内容 / ミュージカル「HAND in HAND」におけるダンサー兼コーラス ※基本的に芝居は無し
 - 応募資格 / 以下の条件を全て満たしている方
 - 富士市に在住、在勤、在学 中学3年生~30歳位
 - ダンス、歌に自信がある方 全練習及び公演に参加できる方
 - 申込み期間 / 平成15年6月3日(火)~平成15年6月15日(日)
 - 応募方法 / 応募用紙に必要事項を記入して、郵送もしくは持参
 - 参加費 / 5,000円(オーディション通過者のみ) 人数/20人位
 - オーディション / 平成15年7月5日(土)
 - 一次審査...ダンス/オーディション当日、会場にて振付。その後審査。
 - 二次審査(一次通過者のみ)
- 歌/課題曲 (HAND in HANDより、M3「HAND in HAND」) の譜面を事前に渡し、当日練習を経て審査。

お申し込み・お問い合わせ

財団法人富士市文化振興財団
事業課 企画広報係
TEL 0545-60-2512 まで

市民参加事業 REPORT

Mr. ブルーアイランド 青島広志の歌ワールド 第3回 歌くらべ~世界の民謡と子供たちの歌~

平成15年1月25日(土)
開演14:00



第1回の「歌はじめ」、第2回の「歌合わせ」に続いて、第3回は富士市在住の音楽家、辻村典枝さん(ソプラノ)、倉藤理大さん(バリトン) 富士市少年少女合唱団が出演。第一部は、世界の民謡と題し、フランス・ドイツ・イタリア・ノルウェー・ロシア・スペイン・イギリス・アメリカと各国の民謡を聴かせていただきました。第二部では、文部省唱歌を中心に、富士市少年少女合唱団の元気ある歌声がホールいっぱいに響き渡りました。また、青島広志構成による、音楽劇「大きくなったら」では、ソリストが演技と歌声の両方で会場を沸かせました。

全3回シリーズ「Mr. ブルーアイランド 青島広志の歌ワールド」は、青島広志氏の巧みな話術と各回出演者の素敵な歌声でお客様を魅了し、大成功のうちに幕を閉じました。

市民ミュージカル制作講座 Vol.2

平成15年2月6日(木)~
9日(日)



昨年に引き続き開催された「市民ミュージカル制作講座」。今回は20名が参加し、講師にロゼシアター主催の市民制作ミュージカル演出家である三浦克也氏を迎え、台本に書かれた文字の端から「心情」「風景」などを読みとる方法や、舞台上の音や光の効果的な使い方等の演出技法を学びました。

また、参加者を3グループに分けてのグループワークでは、同じ台本が演出によってどのように変わるかというテーマで、各グループごとの演出及び出演で実践、三者三様のステージを中ホールにて披露しました。

ロゼネット

おかげさまで十周年。平成十五年十月にオープンしたロゼシアターも十年目に入ります。十年という節目の年を迎え、この「情報誌ロゼ」もマイナーチェンジ。十年目の来年からはフルモデルチェンジする? かも! ぜひご期待!!

編集担当者

ロゼシアター自主事業では、公演終了後、ご来場いただいた皆様にアンケートにご協力いただいております。先日あるコンサートでこのような感想があったので紹介させていただきます。
「世界中が、銃声や爆発音やなぐて歌声や音楽でいっぱいになればいいなと思いましたが(三十代女性)」
企画広報係代表

表紙 佐野美帆
幼稚園からモダンバレエを始め、十八歳の時に上京し、ジャズダンス、クラシックバレエを習う。その後、再び富士市に戻り、ロゼシアター主催の市民制作ミュージカル「新・曽我物語」名残りの小袖、「弥次喜多道中夢枕」等に出演。現在は自宅にてダンススクールを開講し、後継の指導にあたりつつある。



ロゼシアターホームページアドレス: <http://www.city.fuji.shizuoka.jp/rose/>
e-mail: rose@city.fuji.shizuoka.jp
みなさんとロゼを結びホットライン/イベント情報 館内情報/トピックスなど盛りだくさんの内容です。

チケットのお申し込み・お問い合わせは
ロゼ・チケットセンター
☎0545-60-2500 受付時間 9:00~19:00

- すみや 富士中央店 ☎(0545) 60-4567
●富士市民センター ☎(0545) 61-6262
●ラ・ホール富士 ☎(0545) 53-4300
●タンザワ楽器富士店 ☎(0545) 52-1586
- カワセ書店 鷹岡店 ☎(0545) 71-9592
●富士宮・宮原店 ☎(0544) 24-7160
●マルガン書店静岡見沼店 ☎(055) 963-0350
●谷島屋富士松岡S ☎(0545) 60-1150
- ユニサービスカウンター 吉原店 ☎(0545) 51-9027(代)
ユニサーバス富士宮店 ☎(0544) 24-6777(代)
●吉原商店街いろどホール ☎(0545) 51-5227

エッセイ essay



ヨーロッパからの AIR MAIL vol.1

本多まき

桐朋学園大学短期大学部芸術科および研究科卒業。渡独。スイス・バーゼル国立音楽大学ピアノ専攻在籍中にフォルテピアノに興味を持つ。その後、フォルテピアノをドイツ・フライブルク国立音楽大学、パリ国立高等音楽院に学び、ともに最優秀の成績で卒業する。現在、同音楽院室内学科に在籍。これまでに、ピアノを牧野純、稲田美代子、J.J.デュンキ、J.エブリ、故エディット・ピヒト・アクセンフェルト各氏等に師事。「'93 MAYコンサート」出演。平成11年度、楽器の浪漫「バロック古楽器の世界展」ギャラリーコンサート出演。平成12年、平成14年、ロゼシアターにてフォルテピアノによるソロコンサートを行う。その他、室内楽、ソロをはじめ積極的に活動している。



パリ・コンセルヴァトワールに学んで

南ドイツの小さな街「フライブルク」の音楽大を卒業して、ここパリに移ってからも五年が経ちました。地下鉄の階段を上がって初めてこの校舎を眺めた時、あまりの大きさに腰が抜けるかと思いました。日本で通称「パリ国立高等音楽院」と呼ばれるこの学校、正式には Conservatoire national supérieur de musique et de danse de Paris (コンセルヴァトワールナシヨナル(国立)スぺリアー(高等)ドウムジック(音楽)エトドウダンス舞踊(ドウバリ)といひ、音楽家と美しい姿のダンサー達が学んでいます。これまでに、フォーレ、ドビュッシー、サンサーンス等の音楽史上重要な人々もここに学びました。

これは実際に十七世紀ころ宮廷で踊られていたもので、その後、バツなどもこの様式を用いて多くの組曲を残していますが、実際に踊ってみるにより、メヌエット等のリズムが生命を持って感じられるようになりまし。残念ながら踊りの方は、とてもお見せできるようなものではないですが、ルイ王朝時代のヴェルサイユ宮殿で王妃たちが華やかなドレスをまとい踊る姿が浮かぶようです。これはほんの例ですが、ここでは音楽を多方面から解釈し、その上で演奏出来るような教育をしています。

ある二つのオペラ座の公演などは、公演日に早起きして学校の窓口に並ぶと無料チケットが貰えたり。また、演劇、バレエ、美術品に触れる機会も多く与えられています。パリの街にはル・ブル美術館を始めとし、百近い美術・博物館があります。毎月第一日曜日は国立美術館が無料で公開され、散歩がてら気軽にぶらぶらとまわることも出来ます。現在のパリの輪郭は十九世紀半ば、皇帝の意をうけた当時の県知事・ウジェーヌ・ロスモンによって造られました。印象派の画家たちが描いたパリはオスマンの生み出したパリでした。ここで普段何気なく使っている道路や建物が実は二〇〇年前のものだったりすることもしばしば、この街をよく知るには、まだまだ時間がかかりそうです。(つづく)



毎週水・日曜にはマルシェ(朝市)が立ちます。そこで美味しいチーズ、野菜、新鮮な魚など、様々なものを買って帰ることが出来ます。



シャンゼリゼ通り 1836年完成の凱門が見える



パリの中心を流れるセーヌ川に浮かぶシテ島



私の履物、バロック・コーエン教授 教え方もファッションもオリジナル